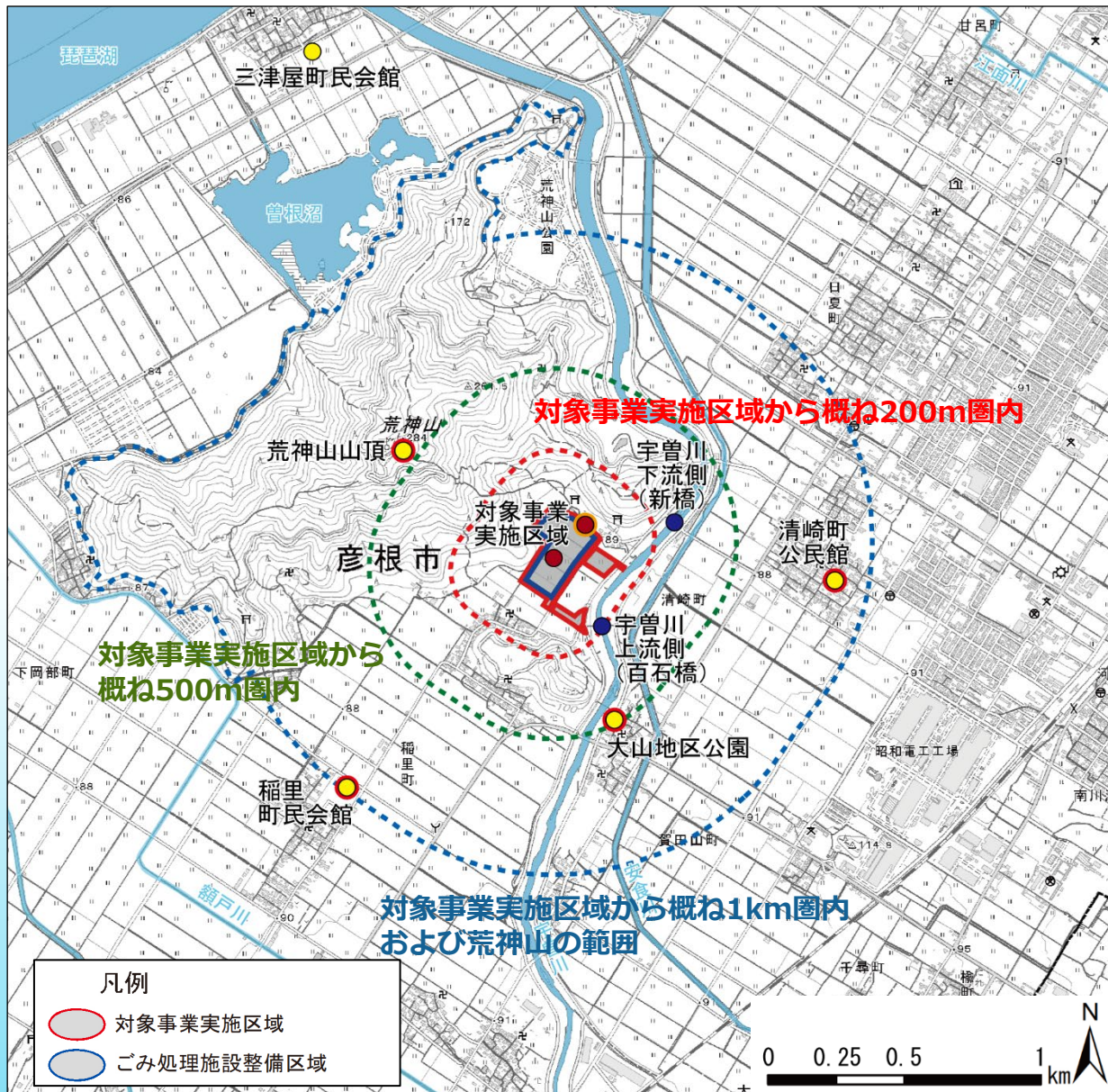


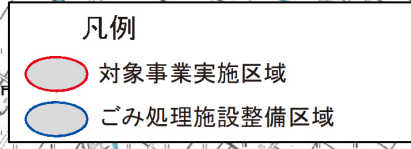
4. 現況調査(主な現地調査)の結果

区分	凡例	項目
区域内	●	大気質 ^{注1} /土壌/ 地上気象・上層気象
	●	騒音/超低周波音/振動
一般環境	●	大気質/悪臭/土壌
	●	大気質/悪臭/土壌/ 騒音/超低周波音/振動
その他	●	水質
	○	動物(猛禽類除く)/ 植物相
	○	鳥類(猛禽類)/植生
	○	人と自然との触れ合い の活動の場/ 文化財/伝承文化



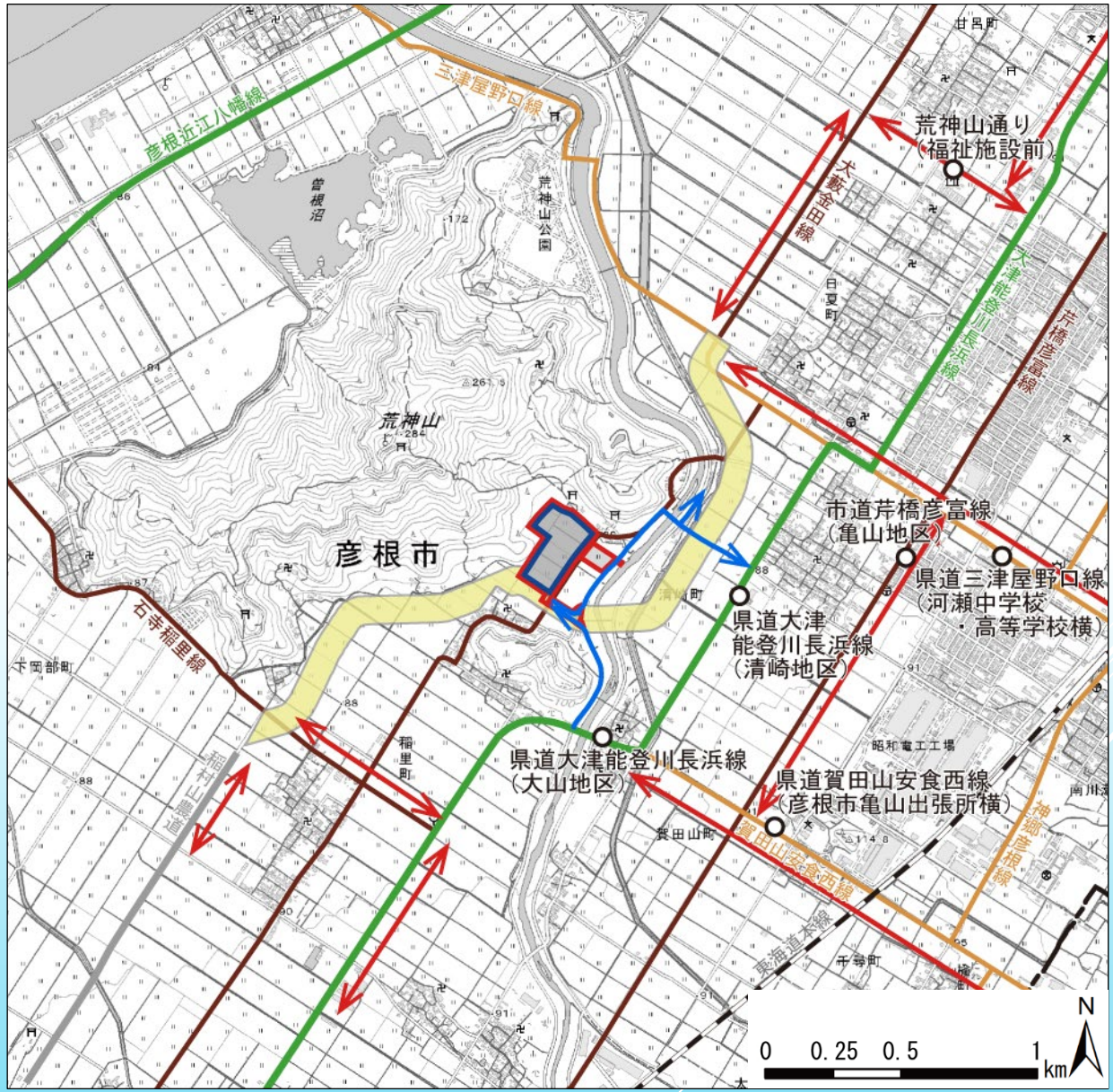
注1) 対象事業実施区域の大気質調査では、降下ばいじん調査のみ実施。

注2) 上記のほか、対象事業実施区域から概ね400m圏内の範囲の代表地点において、地下水位の調査を実施。



②現地調査地域・調査地点(沿道環境)

区分	凡例	項目
沿道環境	○	大気質/騒音/振動/交通量



凡例

- 対象事業実施区域
- ごみ処理施設整備区域
- ↔ 施設関連車両の主な走行ルート
- 市道整備ルート (彦根市)
- 工事用車両走行ルート
- 主要地方道 (県道)
- 一般県道
- 一般市道

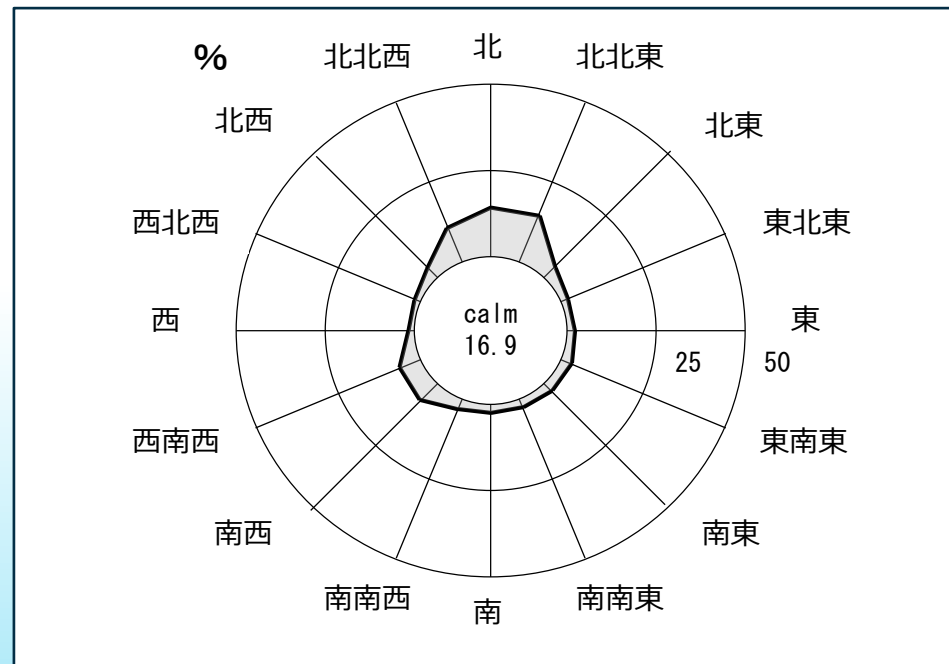
③現地調査の実施時期

項目	年月	令和3年												令和4年							
		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	
大気質				●	●		●	●		●	●		●	●		●	●		●		
気象			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●							
騒音										●											
超低周波音										●											
振動										●											
悪臭							●						●								
水質 (水の濁り・汚れ)				●			●		●	●	●		●			●					
地下水 (水位・流れ)										●			●			●		●			
土壌 (汚染)							●			●											
動物	哺乳類				●	●		●	●	●	●		●	●							
	鳥類				●	●				●			●								
	猛禽類	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	●		
	両生類		●		●	●				●											
	爬虫類				●	●				●											
	昆虫類				●	●		●		●											
	陸産貝類					●				●											
	魚類				●			●		●				●							
	底生動物				●			●		●				●							
植物	植物相			●	●			●		●							●				
	植生									●											
景観		●	●		●	●	●			●			●		●						
人と自然との触れ合いの活動の場						●	●			●			●			●					
文化財										●					●	●					
伝承文化			●		●					●				●							

④現地調査の結果(大気質:地上気象・上層気象)

調査概要

調査方法：(通年) 連続観測機器を用いた観測
(四季) 連続観測機器およびGPSゾンデを用いた観測



注1) 風配図の実線は風向出現頻度 (%) を示す。

注2) Calmは「静穏」を表し、風速0.4m/s以下の割合を示す。

地上気象 (地上10m) の風配図

⑤ 現地調査の結果(大気質:現地拡散実験)

調査概要

実施方法

- ・ 煙突天端高さ付近に排出口を設置 (係留気球を活用)
- ・ トレーサーガス (PMCH) を1時間程度放出
- ・ 地上付近で濃度観測 (30地点程度)

実施時期

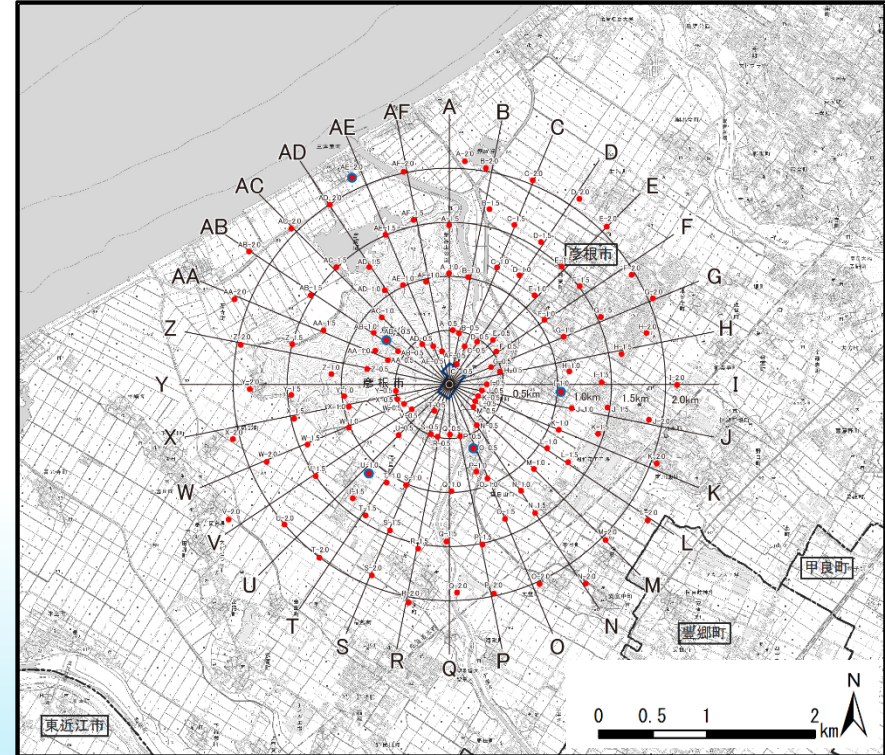
夏季) 令和3年7月8日~14日 (合計10ケース)
 冬季) 令和4年1月13日~19日 (合計10ケース)

実施箇所

ガスの放出: ごみ処理施設整備区域内
 ガスの捕集: 0.5km、1km、1.5km、2km離れの
 風下側約30地点



トレーサーガス放出状況



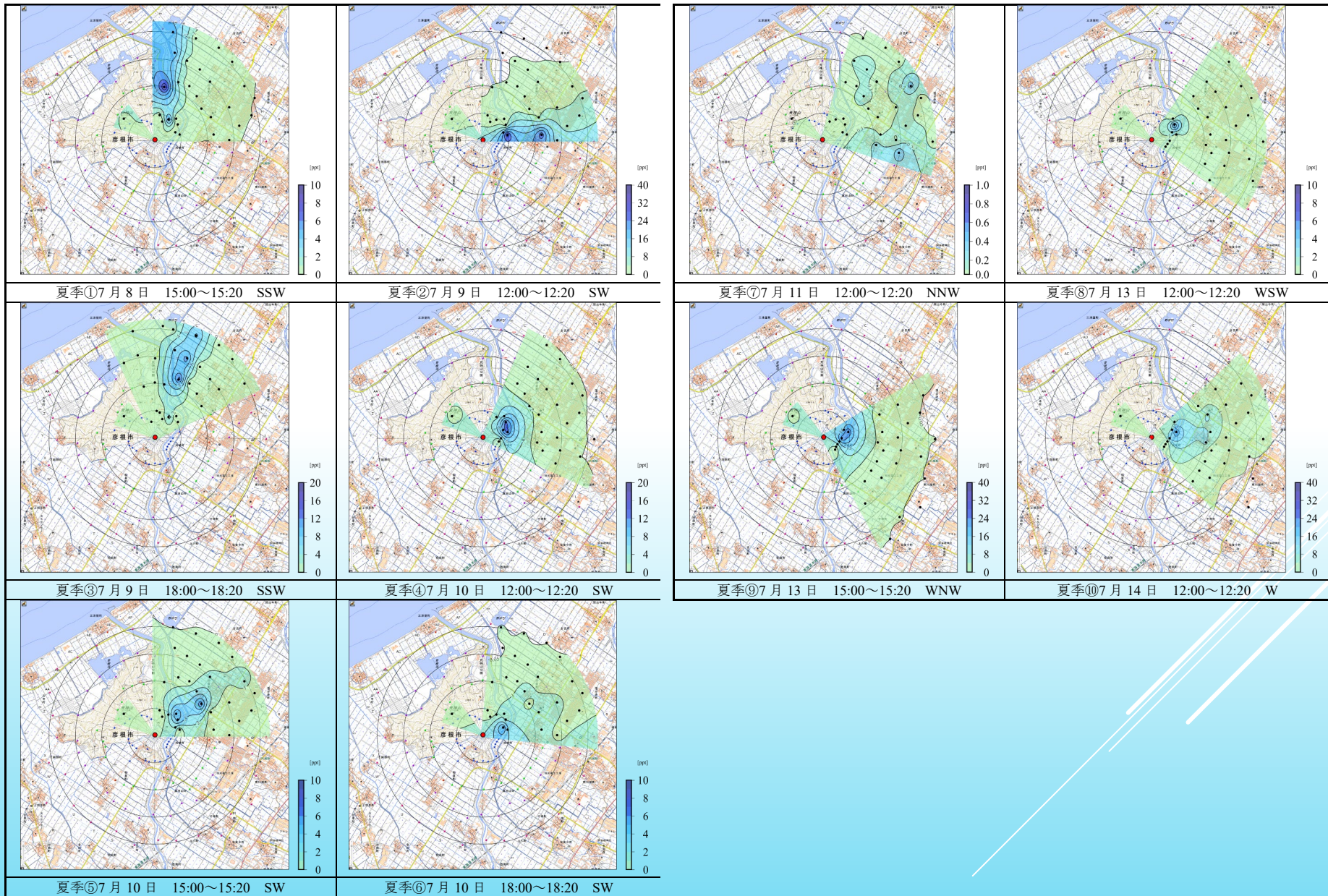
凡例

- (青) ごみ処理施設整備区域
- (黒) トレーサーガス放出地点 (対象事業実施区域内)
- (赤) トレーサーガス捕集地点
- (青) 一般環境調査地点

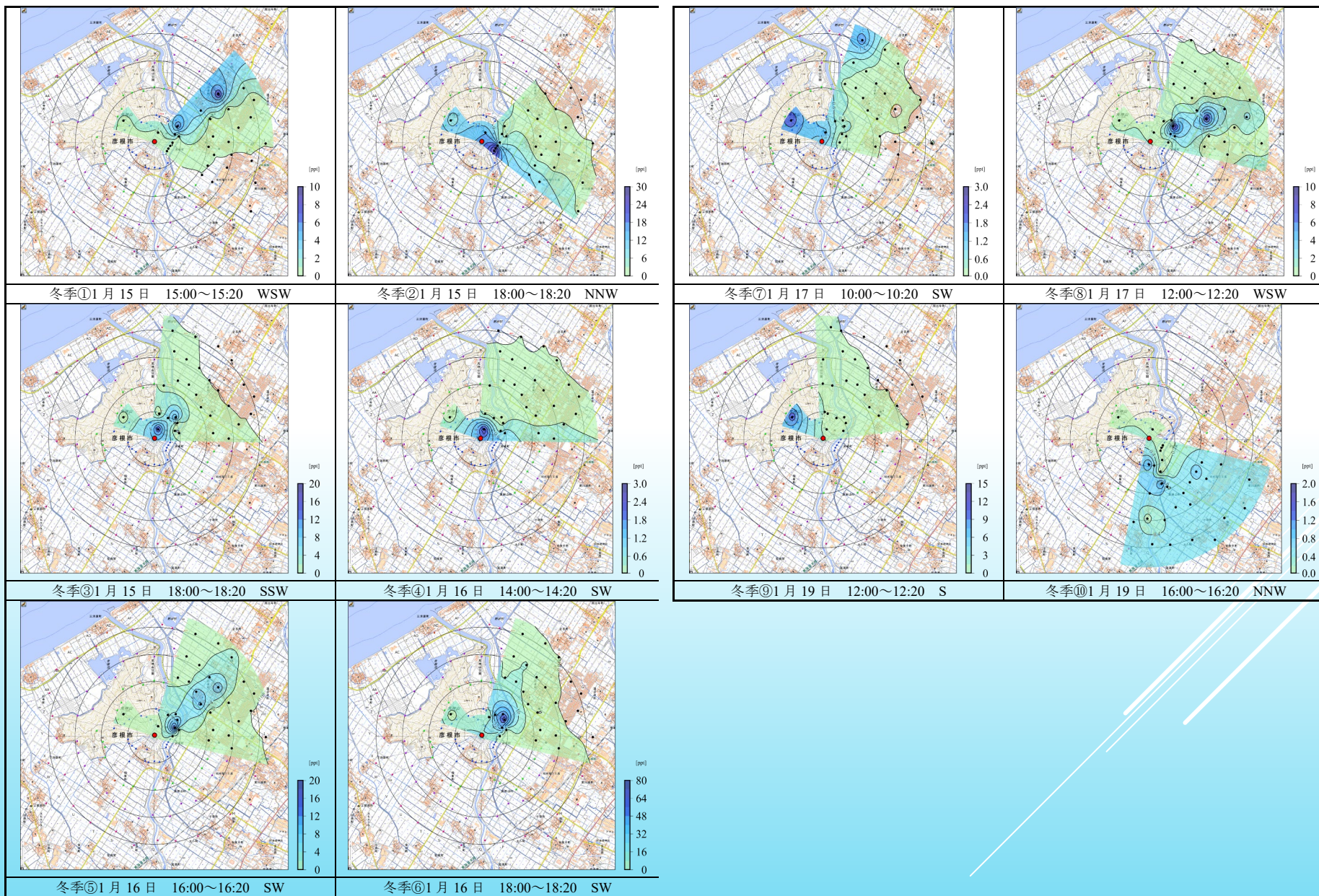
注) 気象状況に応じて、
 風下側約30地点を
 選定の上捕集を
 実施した。

トレーサーガス捕集地点位置図

⑤ 現地調査の結果(大気質: 現地拡散実験)



⑤ 現地調査の結果(大気質:現地拡散実験)



⑤ 現地調査の結果(大気質:現地拡散実験)

大気安定度の検討

- 分析結果を踏まえて現況再現計算を行い、再現性の高い大気安定度を検討した。
⇒長期濃度の予測において、鉛直方向の拡散幅 (σ_z) について
山からの風の場合は安定度A-B、平地からの風の場合は安定度Bを採用した。

長期濃度計算に採用した安定度

補正後の安定度

σ_y	σ_z (山からの風)	σ_z (平地からの風)
A	A-B	B
A-B		
B		
B-C		
C		
C-D		
D		



風向の区分 (山・平地)

⑥現地調査の結果(大気質:一般環境)

調査地点	二酸化窒素			二酸化硫黄			降下ばいじん
	期間平均値 (ppm)	日平均値の 最高値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)	期間平均値 (ppm)	日平均値の 最高値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)	総量 (t/km ² /月)
対象事業実施区域	—	—	—	—	—	—	1.19
清崎町公民館	0.004	0.009	0.020	0.000	0.001	0.002	1.22
大山地区公園	0.004	0.008	0.019	0.000	0.001	0.002	1.58
稲里町民会館	0.004	0.008	0.019	0.001	0.001	0.002	1.54
三津屋町民会館	0.004	0.008	0.015	0.000	0.001	0.003	—
荒神山山頂	0.003	0.007	0.014	0.000	0.001	0.002	3.62
環境基準等	—	0.04~ 0.06以下	—	—	0.04	0.1	20

調査地点	浮遊粒子状物質			塩化水素	ダイオキシン類	水銀
	期間平均値 (mg/m ³)	日平均値の 最高値 (mg/m ³)	1時間値の 最高値 (mg/m ³)	期間平均値 (ppm)	期間平均値 (pg-TEQ/m ³)	期間平均値 (μg/m ³)
清崎町公民館	0.012	0.046	0.092	<0.001	0.010	<0.004
大山地区公園	0.012	0.043	0.087	<0.001	0.0085	<0.004
稲里町民会館	0.013	0.046	0.085	<0.001	0.024	<0.004
三津屋町民会館	0.012	0.042	0.089	<0.001	0.0072	<0.004
荒神山山頂	0.012	0.040	0.076	<0.001	0.0078	<0.004
環境基準等	—	0.10	0.20	0.02	0.6	0.04

⑦現地調査の結果(大気質:沿道環境)

調査地点	二酸化窒素			浮遊粒子状物質		
	期間平均値 (ppm)	日平均値の 最高値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)	期間平均値 (mg/m ³)	日平均値の 最高値 (mg/m ³)	1時間値の 最高値 (mg/m ³)
荒神山通り (福祉施設前)	0.004	0.009	0.020	0.013	0.049	0.096
市道芹橋彦富線 (亀山地区)	0.005	0.011	0.021	0.011	0.042	0.095
県道賀田山安食西線 (彦根市亀山出張所横)	0.006	0.011	0.024	0.013	0.045	0.086
県道三津屋野口線 (河瀬中学校・高等学校横)	0.005	0.010	0.018	0.014	0.044	0.086
県道大津能登川長浜線 (大山地区)	0.005	0.010	0.024	0.013	0.043	0.103
県道大津能登川長浜線 (清崎地区)	0.004	0.008	0.018	0.010	0.023	0.043
環境基準	—	0.04~0.06 以下	—	—	0.10	0.20

⑧現地調査の結果(騒音・超低周波音・振動:一般環境)

調査地点	時間区分	騒音(dB)			超低周波音(dB)			振動(dB)		
		騒音レベル(L _{Aeq})		環境基準	低周波音レベル(L _G)		参照値	振動レベル(L ₁₀)		振動感覚閾値
		平日	休日		平日	休日		平日	休日	
対象事業実施区域	昼間	40	40	55	75	75	92	<25	<25	55
	夜間	32	32	45				<25	<25	55
清崎町公民館	昼間	37	38	55	78	78	92	<25	<25	55
	夜間	35	33	45				<25	<25	55
大山地区公園	昼間	44	44	55	80	78	92	29	27	55
	夜間	32	30	45				26	25	55
稲里町民会館	昼間	43	41	55	78	79	92	<25	<25	55
	夜間	34	34	45				<25	25	55
荒神山山頂	昼間	42	41	55	73	77	92	<25	<25	55
	夜間	32	33	45				<25	<25	55

注1) 騒音の時間区分 昼間：6～22時、夜間：22～6時。

注2) 振動の時間区分 昼間：8～19時、夜間：19～8時。なお、「<25」は25dB(測定下限値)未満を示す。

⑨現地調査の結果(騒音・振動:沿道環境)

調査地点	時間区分	騒音(dB)			振動(dB)		
		騒音レベル (L_{Aeq})		環境基準	振動レベル (L_{10})		要請限度
		平日	休日		平日	休日	
荒神山通り (福祉施設前)	昼間	64	64	65	27	25	65
	夜間	54	54	60	25	25	60
市道芹橋彦富線 (亀山地区)	昼間	<u>68</u>	<u>68</u>	65	42	42	65
	夜間	60	60	60	32	31	60
県道賀田山安食西線 (彦根市亀山出張所横)	昼間	67	67	70	36	33	65
	夜間	61	60	65	28	27	60
県道三津屋野口線 (河瀬中学校・高等学校横)	昼間	64	64	70	41	41	65
	夜間	58	57	65	31	31	60
県道大津能登川長浜線 (大山地区)	昼間	69	69	70	36	34	65
	夜間	63	62	65	28	27	60
県道大津能登川長浜線 (清崎地区)	昼間	69	69	70	38	39	65
	夜間	61	61	65	29	28	60

注1) 騒音の時間区分 昼間：6～22時、夜間：22～6時。なお、下線は環境基準超過を示す。

注2) 振動の時間区分 昼間：8～19時、夜間：19～8時。

⑩現地調査の結果(水質:水の濁り)

無降雨時

項目	調査地点	調査結果 (mg/L)					環境基準
		春季 (R3.4)	夏季 (R3.7)	秋季 (R3.10)	冬季 (R4.1)	農繁期 (R4.5)	
浮遊物質	宇曾川上流側 (百石橋)	4	5	1	3	37	25以下
	宇曾川下流側 (新橋)	6	3	1	4	40	

降雨時

項目	調査地点	調査結果 (mg/L)		
		1回目 (R3.9)	2回目 (R3.11)	3回目 (R4.7)
浮遊物質	宇曾川上流側 (百石橋)	21	41	120
	宇曾川下流側 (新橋)	17	64	180

⑪ 現地調査の結果(動物・植物)

⇒補足資料①参照

調査項目	確認種数 (重要な種の確認数)	代表的な 重要な種	調査項目	確認種数 (重要な種の確認数)	代表的な 重要な種
哺乳類調査	6目9科14種 (3目3科6種)	 カヤネズミ(巣)	陸上昆虫類調査	18目183科511種 (3目10科10種) (底生動物調査と合計 4目11科17種)	 エゾトンボ
一般鳥類調査 ※猛禽類の確認 種含む	16目39科74種 (12目24科36種) (猛禽類調査と合計 12目24科40種)	 ケリ	陸産貝類調査	1目7科17種 (1目4科5種)	 ナガオカモノアラガイ
猛禽類調査 ※一般鳥類調査 との重複種を含 む	2目3科11種 (2目3科11種)	 オオタカ(幼鳥)	魚類調査	4目9科24種 (4目6科13種)	 アブラボテ
爬虫類調査	2目8科10種 (2目5科5種)	 ヒガシニホントカゲ	底生動物調査 ※水生昆虫類を 含む	7綱18目50科98種 (二枚貝綱2目2科3種) (昆虫綱 3目4科8種)	 マツカサガイ
両生類調査	2目4科7種 (2目3科5種)	 ヤマトサンショウウオ(卵)	植物調査	51目121科569種 (7目8科8種)	 コガマ

注) 重要な種 : レッドデータブックに記載された絶滅危惧種 (外来種を除く) などの本事業における保全対象種

⑫現地調査の結果(植物・生態系)

植生

調査地域を占める割合

- ①水田雑草群落 22%
- ③コナラ群落 18%
- ②スギ・ヒノキ植林 11%

類型区分 (生態系)

植生の分布状況から「樹林」「耕作地・市街地」「河川」の3つの環境類型に区分した。

注目種 (生態系)

動植物の調査結果から、当地域の生態系の機能の特徴づける注目種を選定した。

区分	種名
上位性	ホンドキツネ
	ダイサギ
	オオタカ
典型性	ホンシュウカヤネズミ
	ヒヨドリ
	ツバメ
	トノサマガエル
	アユ
	スジエビ
	キタキチョウ
	ナメクジ
	ミナミメダカ
	ヤマトサンショウウオ
特殊性	エゾトンボ
	ミドリシジミ
	アブラボテ



⑬現地調査の結果(地下水)

地下水水位 (井戸)

項目	調査地点	調査結果 (GL-m)			
		秋季 (R3.10)	冬季 (R4.1)	春季 (R4.5)	夏季 (R4.7)
地下水水位	日夏①	0.470	0.470	0.480	0.480
	日夏②	0.190	0.110	0.120	0.120
	稲里①	自噴を確認	自噴を確認	自噴を確認	自噴を確認
	稲里②	自噴を確認	自噴を確認	自噴を確認	自噴を確認

注1) 単位の「GL-m」は、地盤高さを基準とした地下水位の深度を表す。

注2) 調査期間途中で調査を中止した箇所は、整理の対象外とした。

注3) 稲里①・稲里②では井戸の構造上水位計による地下水位の測定が困難なため、自噴状況を確認した。

⑭現地調査の結果(土壌)

土壌中ダイオキシン類

調査地点		測定値(pg-TEQ/g)	環境基準
対象事業 実施区域	表層部	区域中央部	1,000以下
	地表面～ 深さ30cm	北側敷地境界付近	
		区域中央部	
		南側敷地境界付近	
清崎町公民館		0.15	
大山地区公園		9.3	
稲里町民会館		0.021	
三津屋町民会館		0.31	
荒神山山頂		0.22	

土壌環境基準項目 (有害物質等)

- ・各地点ともに環境基準を下回っていた。

5. 影響の予測・評価の結果

(1)大気質：①予測内容(重機の稼働：排出ガス)

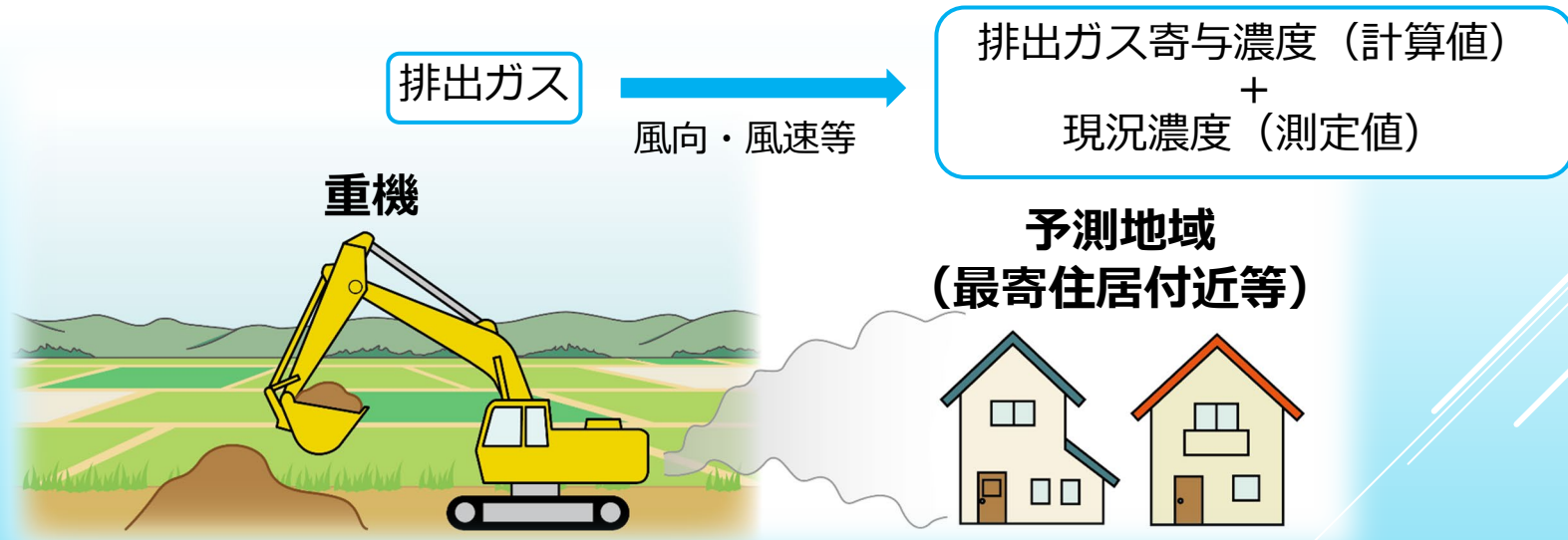
予測の概要

工事実施における重機（建設機械）の稼働に伴う、二酸化窒素および浮遊粒子状物質の年平均値を予測。

主な予測条件：気象条件（風向・風速・大気安定度）
工事計画（工事工程・重機の種類・稼働位置）

予測対象時期

重機の稼働による環境影響が最大となる時期



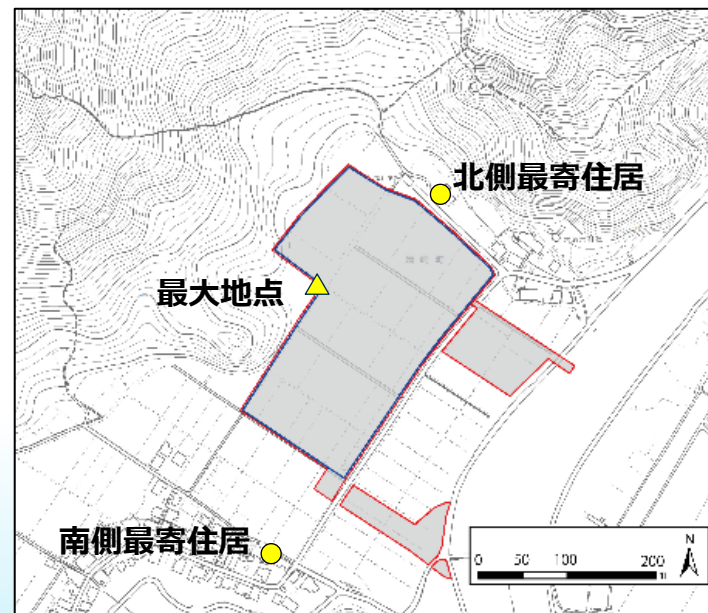
重機からの排出ガスの影響予測のイメージ

予測結果

【予測結果 (最大地点)】

地点名	二酸化窒素(ppm)		
	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間98%値	環境保全 目標値
最大着地濃度地点 (西側敷地境界)	0.017	0.036	0.04~0.06の ゾーン内 または それ以下

地点名	浮遊粒子状物質(mg/m ³)		
	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間2% 除外値	環境保全 目標値
最大着地濃度地点 (西側敷地境界)	0.014	0.036	0.10 以下



評価結果

基準・目標との整合性が図られるほか、環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測結果

【予測結果（周辺集落等）】

地点名	二酸化窒素(ppm)			浮遊粒子状物質(mg/m ³)		
	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間98%値	環境保全 目標値	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間2%除外値	環境保全 目標値
1.清崎町公民館	0.004	0.013	0.04~0.06の ゾーン内 または それ以下	0.012	0.032	0.10 以下
2.大山地区公園	0.004	0.014		0.012	0.032	
3.稲里町民会館	0.004	0.013		0.013	0.034	
4.荒神山山頂	0.003	0.012		0.012	0.032	
5.北側最寄住居	0.009	0.022		0.013	0.035	
6.南側最寄住居	0.008	0.020		0.014	0.034	

評価結果

基準・目標との整合性が図られるほか、環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測の概要

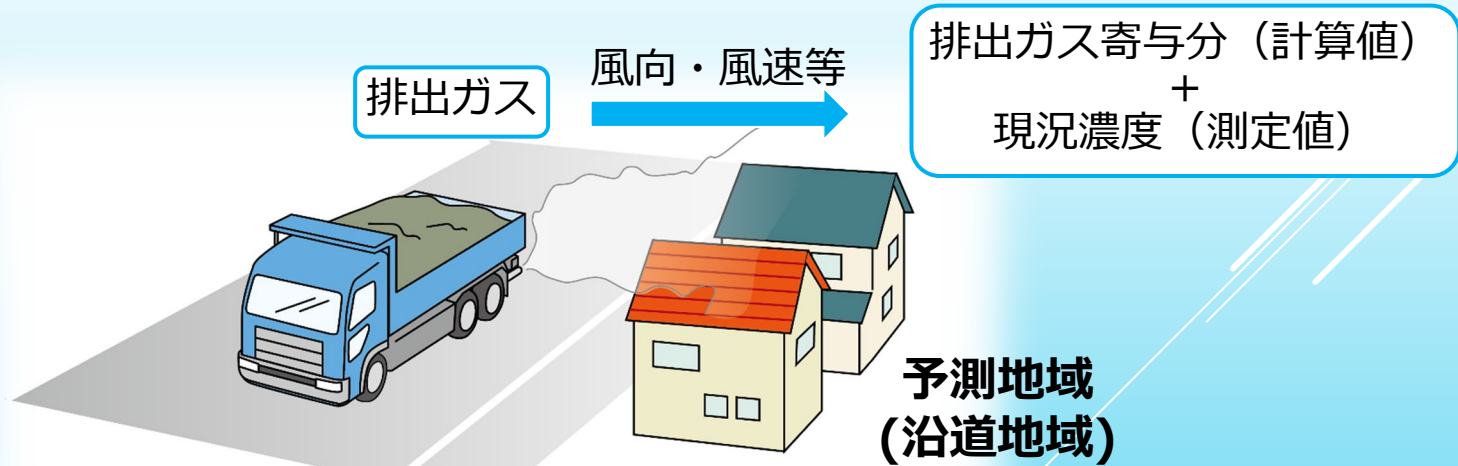
工事用車両の走行および施設供用後の施設関連車両の走行による、二酸化窒素および浮遊粒子状物質の年平均値を予測。

主な予測条件： 気象条件（風向・風速）・道路条件・
交通条件（時間別交通量、車種構成比、
平均走行速度）・事業計画・工事計画

予測対象時期

工事用車両：年間累計排出量が最大となる一年間

施設関連車両：施設関連車両の走行による環境影響が最大となる時期



車両からの排出ガスの影響予測のイメージ

(1)大気質：⑤予測内容(工事用車両：排出ガス)

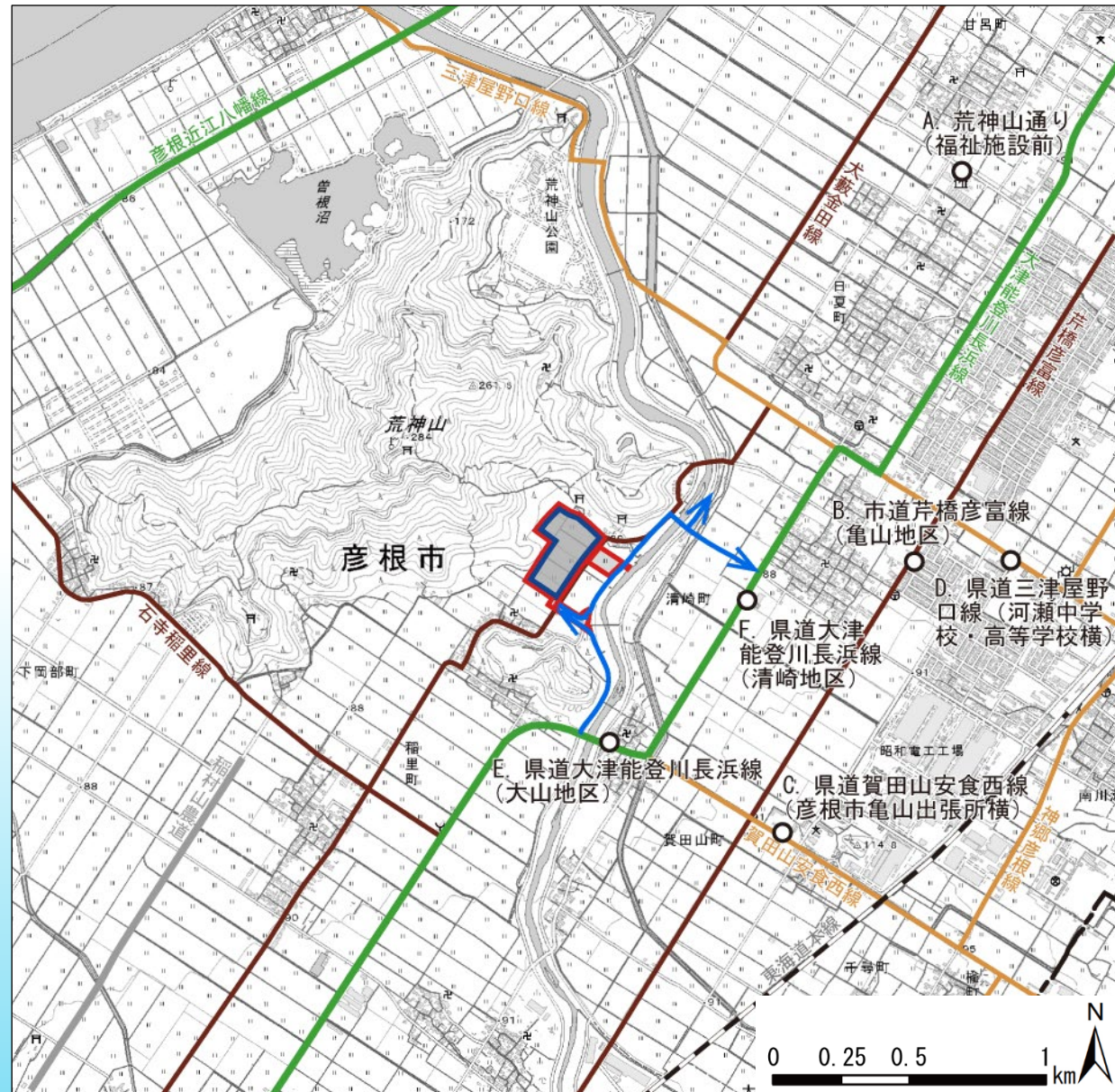
予測に使用した車両台数

(工事用車両)

- ・工事用車両台数が最も多くなる1年間を予測対象とした。
- ・走行台数は予測対象とした1年間における日平均台数とした。

大型車：56～104台/日
(片道)

小型車：6台/日(片道)



予測結果

地点名	二酸化窒素(ppm)			浮遊粒子状物質(mg/m ³)		
	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間98%値	環境保全 目標値	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間2% 除外値	環境保全 目標値
A.荒神山通り (福祉施設前)	0.004	0.014	0.04~0.06の ゾーン内 または それ以下	0.012	0.033	0.10 以下
B.市道芹橋彦富線 (亀山地区)	0.006	0.014		0.012	0.033	
C.県道賀田山安食西線 (彦根市亀山出張所横)	0.006	0.014		0.012	0.033	
D.県道三津屋野口線 (河瀬中学校・高等学校横)	0.005	0.014		0.012	0.033	
E.県道大津能登川長浜線 (大山地区)	0.006	0.014		0.012	0.033	
F.県道大津能登川長浜線 (清崎地区)	0.005	0.014		0.012	0.033	

評価結果

基準・目標との整合性が図られるほか、環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

(1)大気質：⑦予測内容(施設関連車両：排出ガス)

予測に使用した車両台数

(施設関連車両)

- 各地点で想定される年間を通じて平均的な日台数を設定した。

地点名	台数 (台/日:片道)	
	大型車	小型車
A.荒神山通り	66	218
B.市道芹橋彦富線	20	15
C.県道賀田山安食西線	15	27
D.県道三津屋野口線	16	6
E.県道大津能登川長浜線 (大山地区)	13	27
F.県道大津能登川長浜線 (清崎地区)	0	6
G.市道整備ルート	13	27



注) 地点Eは北側工区供用時のみ、
地点Gは南側工区供用後に
施設関連車両の走行が
予定されている地点である。

予測結果

地点名	二酸化窒素(ppm)			浮遊粒子状物質(mg/m ³)		
	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間98%値	環境保全 目標値	予測結果 (年平均値)	日平均値の 年間2% 除外値	環境保全 目標値
A.荒神山通り (福祉施設前)	0.005	0.014	0.04~0.06の ゾーン内 または それ以下	0.012	0.033	0.10 以下
B.市道芹橋彦富線 (亀山地区)	0.006	0.014		0.012	0.033	
C.県道賀田山安食西線 (彦根市亀山出張所横)	0.006	0.014		0.012	0.033	
D.県道三津屋野口線 (河瀬中学校・高等学校横)	0.005	0.014		0.012	0.033	
E.県道大津能登川長浜線 (大山地区)	0.006	0.014		0.012	0.033	
F.県道大津能登川長浜線 (清崎地区)	0.005	0.014		0.012	0.033	
G.市道整備ルート沿道	0.004	0.014		0.013	0.035	

評価結果

基準・目標との整合性が図られるほか、環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

(1)大気質：⑨予測内容(重機の稼働：粉じん)

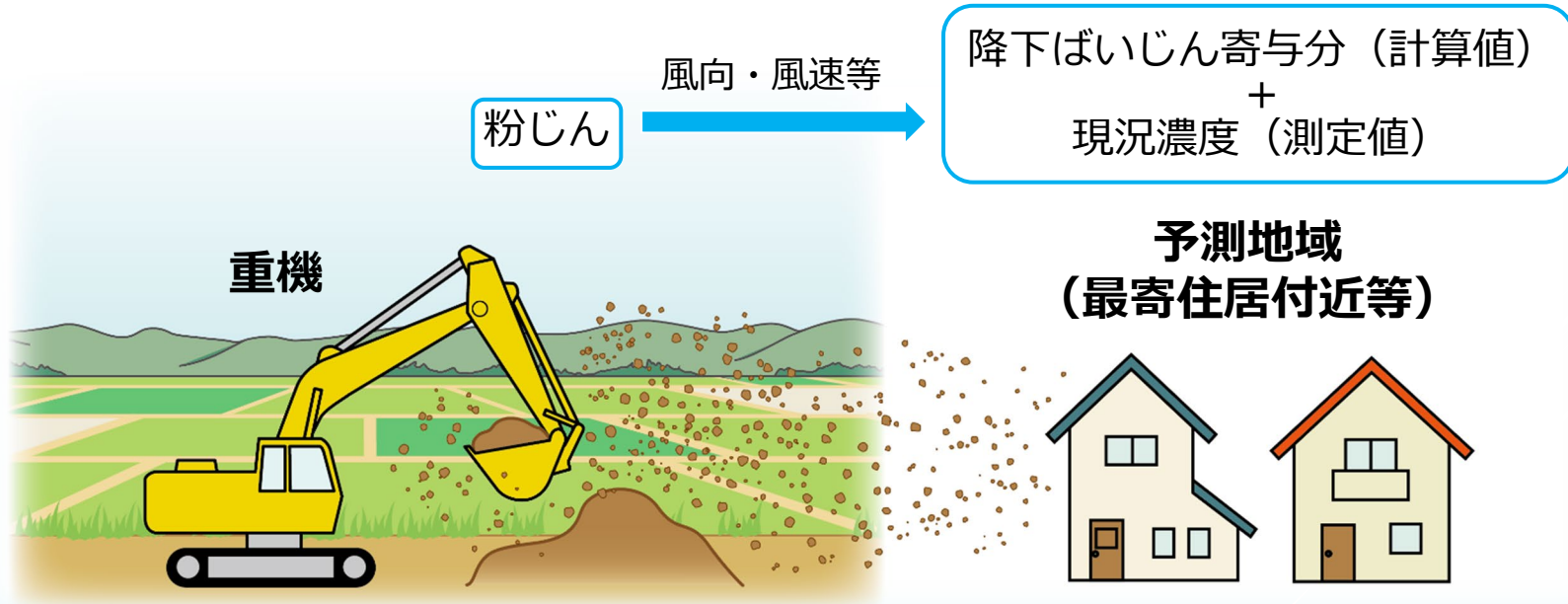
予測の概要

工事の実施における重機（建設機械）の稼働に伴う降下ばいじん（粉じん）の発生量を予測。

主な予測条件： 気象条件（風向・風速）
工事計画（工事の種別・工事日数・施工面積）

予測対象時期

重機の稼働による粉じん等に係る環境影響が最大となる時期



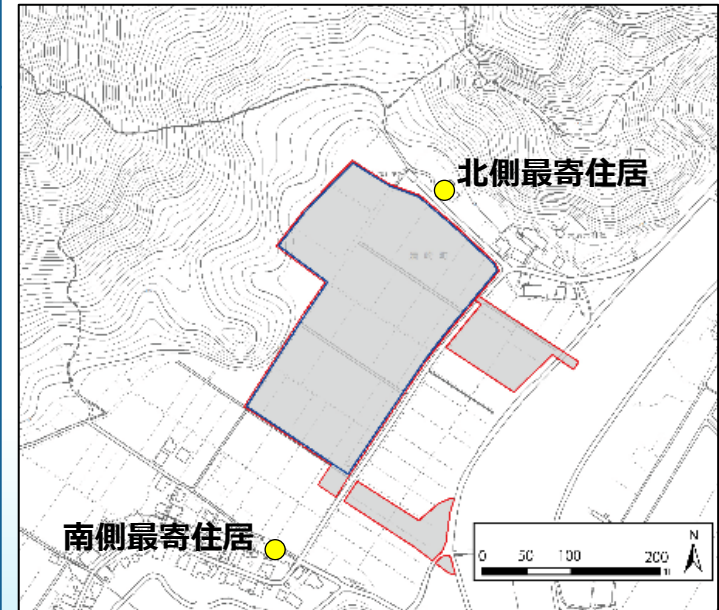
重機からの粉じん予測のイメージ

(1)大気質：⑩予測・評価結果(重機の稼働：粉じん)

予測結果

[単位：t/km²/月]

地点名	予測結果				環境保全 目標値
	春季	夏季	秋季	冬季	
1.清崎町公民館	1.82	0.72	1.02	1.34	20以下
2.大山地区公園	2.41	1.63	1.09	1.29	
3.稲里町民会館	2.50	0.72	1.69	1.25	
4.荒神山山頂	4.24	3.87	3.97	2.43	
5.北側最寄住居	1.90	1.58	1.34	1.42	
6.南側最寄住居	2.67	2.19	2.26	1.61	



評価結果

基準・目標との整合性が図られるほか、環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

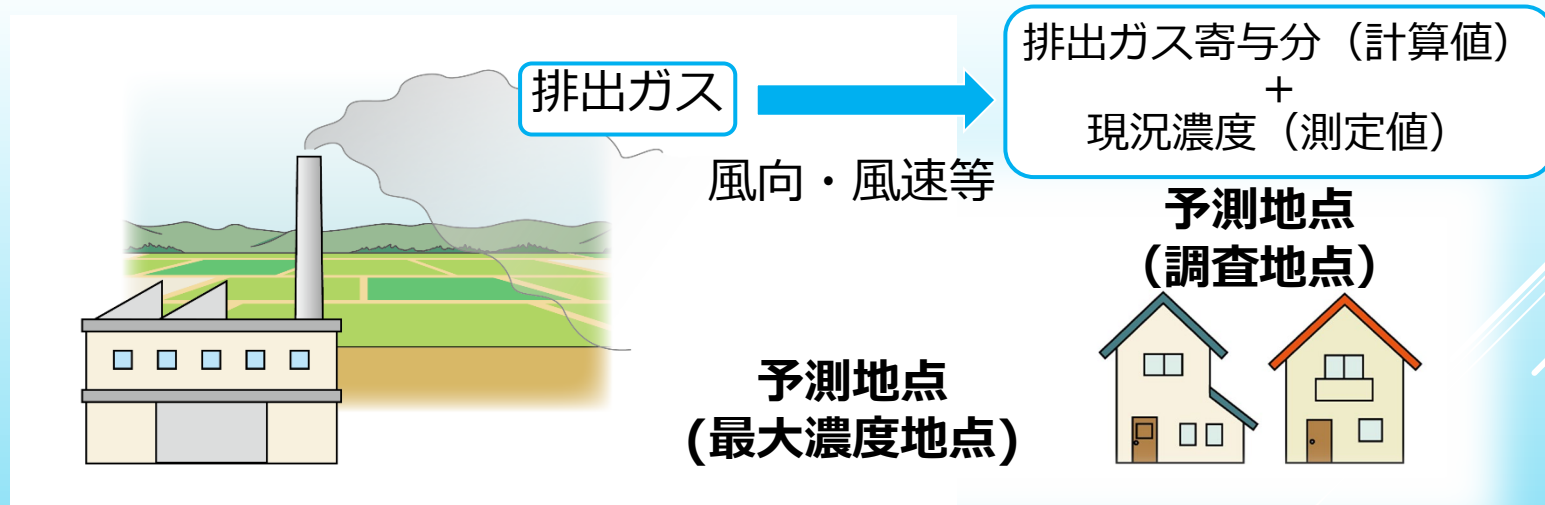
予測の概要

施設供用後の煙突排出ガスによる大気質の年平均值および1時間値を予測。

主な予測条件：気象条件（風向・風速・大気安定度）、発生源条件（煙突排出ガスの諸元・煙突の位置）、現地拡散実験

予測対象時期

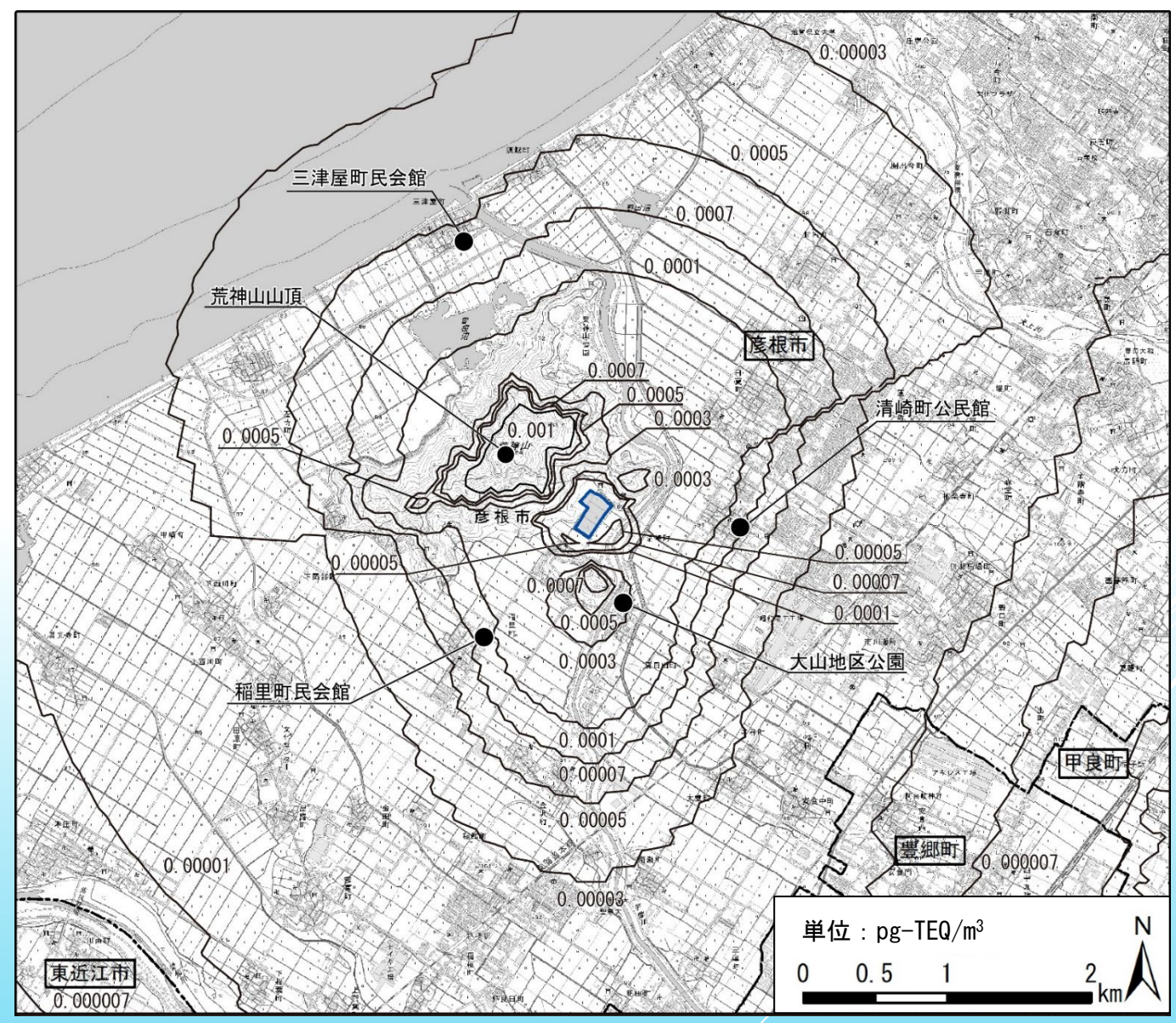
施設の稼働が定常的となる時期



煙突排出ガスの影響予測のイメージ

予測結果

[長期濃度予測結果
(寄与濃度分布：
ダイオキシン類の例)]



予測結果

[長期濃度予測結果（最大着地濃度地点）]

項目	寄与濃度 ①	現況濃度 ②	予測結果 (年平均値) ①+②	予測結果 (日平均値)	環境保全 目標値
二酸化窒素 (ppm)	0.00020	0.004	0.004	0.013	0.04~0.06の ゾーン内または それ以下
二酸化硫黄 (ppm)	0.00049	0.001	0.001	0.002	0.04以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.00016	0.013	0.013	0.034	0.10以下
塩化水素 (ppm)	0.00049	0.001	0.001	/	0.02以下
水銀 (μg/m ³)	0.00049	0.004	0.004		0.04以下
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.00163	0.024	0.026		0.6以下

注1) 最大着地濃度地点：事業実施区域北西側約600mの位置

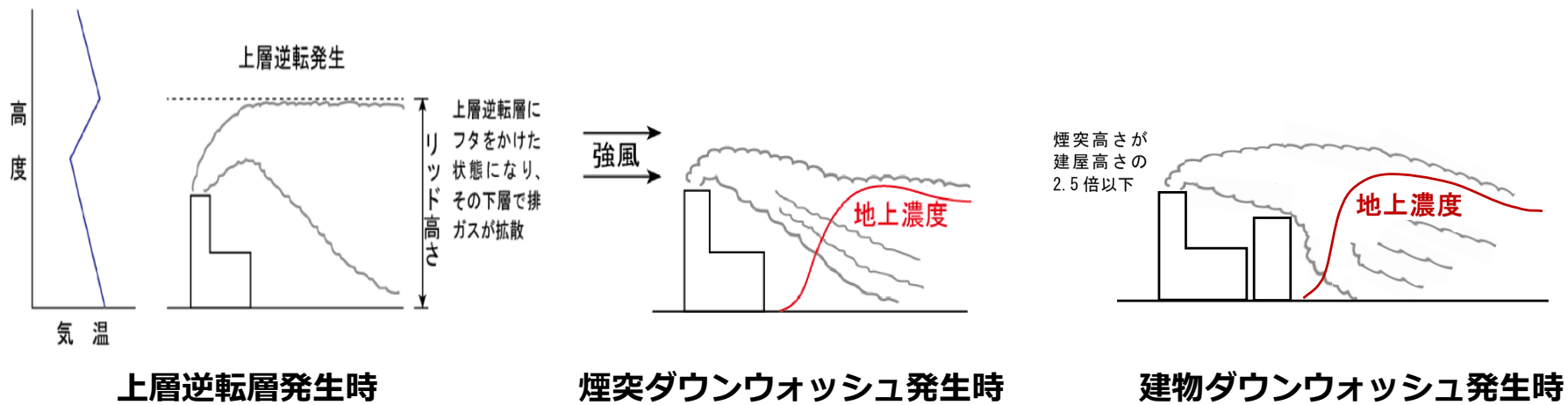
注2) 日平均値は二酸化窒素が日平均値の年間98%値を、二酸化硫黄および浮遊粒子状物質は日平均値の年間2%除外値を示す。

予測結果

[長期濃度予測結果 (周辺集落等：ダイオキシン類の例)]

[単位：pg-TEQ/m³]

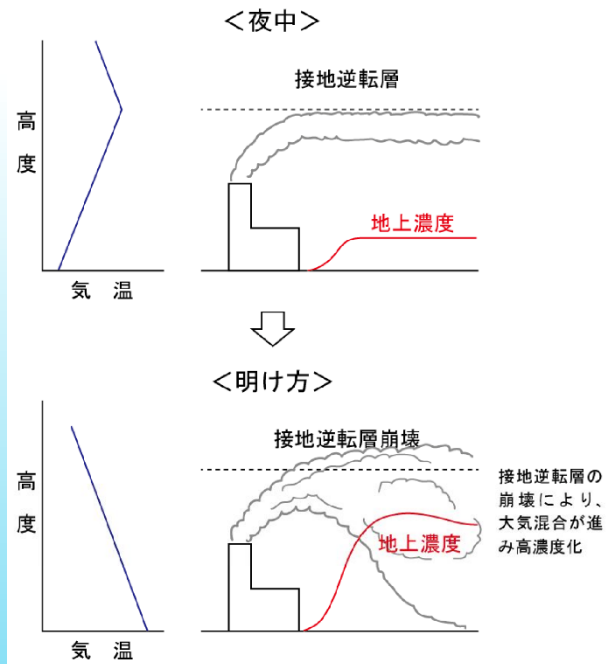
予測地点	年平均値			環境保全 目標値
	寄与濃度 ①	現況濃度 ②	予測結果 ① + ②	
1.清崎町公民館	0.00008	0.010	0.010	0.6以下
2.大山地区公園	0.00034	0.0085	0.0088	
3.稲里町民会館	0.00008	0.024	0.024	
4.三津屋町民会館	0.00006	0.0072	0.0073	
5.荒神山山頂	0.00147	0.0078	0.0093	
最大着地濃度地点	0.00163	0.024	0.026	



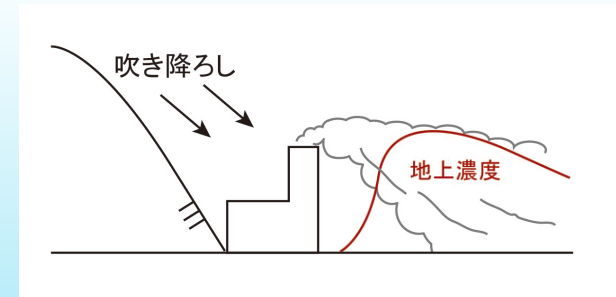
上層逆転層発生時

煙突ダウンウォッシュ発生時

建物ダウンウォッシュ発生時



フミゲーション発生時



地形ダウンドラフト発生時

予測概要 (地形ダウンドラフト)

- 対象事業実施区域に設置したドップラーライダーで風速の鉛直方向成分の観測を実施。
- 山からの風が吹いた場合の乱流強度※は、荒神山の山頂（高度約200m）より低い高度で比較的高くなる傾向が見られた。ただし、平地からの風の場合においても、同程度の乱流強度が確認された。

※風速変動成分の標準偏差 σ_w を風速 u で除した値 (σ_w/u) であり、鉛直方向の乱流の有無の指標となる。



ドップラーライダー設置状況

- ↓
- 鉛直方向の乱流の風向による明確な差は見られなかったが、現地拡散実験より、山からの風について大気安定度を不安定側に変更することで予測精度が向上したことから、吹き降ろし（ダウンドラフト）が生じていることが示唆された。
 - 一般的に強風時には大気安定度はD（安定）となるが、風速に関わらず大気安定度が不安定となる気象条件を想定し、強風・中間的風速において、大気安定度をA（強不安定）とした条件を想定した。

予測結果

[短期濃度予測結果 (最大着地濃度地点)]

項目	予測結果						環境保全 目標値
	一般的な 気象条件	上層 逆転層 発生時	煙突ダウン ウォッシュ 発生時	建物ダウン ウォッシュ 発生時	フュミ ゲーション 発生時	地形ダウン ドラフト 発生時	
二酸化窒素 (ppm)	0.021	0.022	0.020	0.020	0.021	0.020	0.1 以下
二酸化硫黄 (ppm)	0.005	0.007	0.003	0.004	0.007	0.004	0.1 以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.093	0.093	0.092	0.092	0.093	0.092	0.20以下
塩化水素 (ppm)	0.003	0.005	0.001	0.002	0.005	0.002	0.02以下
水銀 (μg/m ³)	0.006	0.008	0.004	0.005	0.008	0.005	0.04以下
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.060	0.066	0.055	0.058	0.067	0.056	0.6以下

注) 寄与濃度と現況濃度を足し合わせた値である。

評価結果

基準・目標との整合性が図られるほか、環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測の概要

リサイクル施設の稼働に伴う粉じんの飛散の量による影響の程度を定性的に予測。

予測対象時期

施設が定常的な稼働となる時期

予測結果

類似施設の調査結果から粉じんの影響は生じていないことや、類似施設と同様の環境保全措置を講じることにより、影響は極めて小さいものと予測。

- ・ 類似施設と同様の構造である。
- ・ 敷地境界の粉じん濃度は周辺民家の濃度を下回っている。
- ・ 環境保全措置（後述）を講じる。

施設	調査地点	期間平均値 (mg/m ³)
類似 リサイクル 施設	敷地境界	0.020
	周辺民家※	0.024

※敷地境界より遠い地点である。

評価結果

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。

予測の概要

工事実施による重機（建設機械）の稼働による騒音・振動、工事用車両の走行による騒音・振動および施設稼働に伴う騒音・超低周波音・振動を予測。

主な予測条件

工事中：重機の稼働条件（種類・稼働台数・位置・稼働時間・

発生源の音響パワーレベル(L_{A5})・発生源の振動レベル)

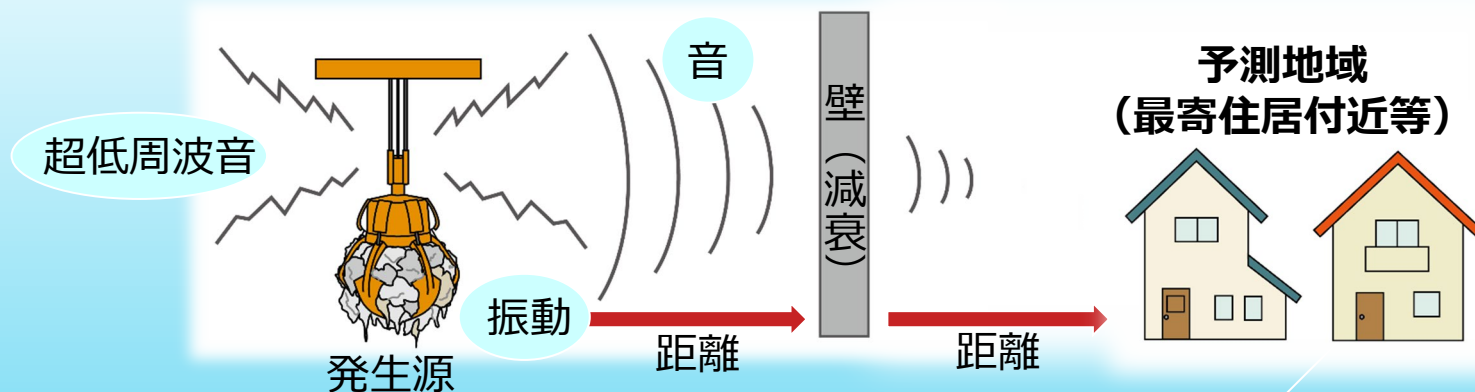
施設稼働：事業計画（発生源のパワーレベル・超低周波音レベル・振動レベル等）

予測対象時期

騒音（工事中）：重機の稼働等による騒音に係る環境影響が最大となる時期

振動（工事中）：重機の稼働等による振動に係る環境影響が最大となる時期

騒音・超低周波音・振動（施設稼働）：施設の稼働が見込まれる時期



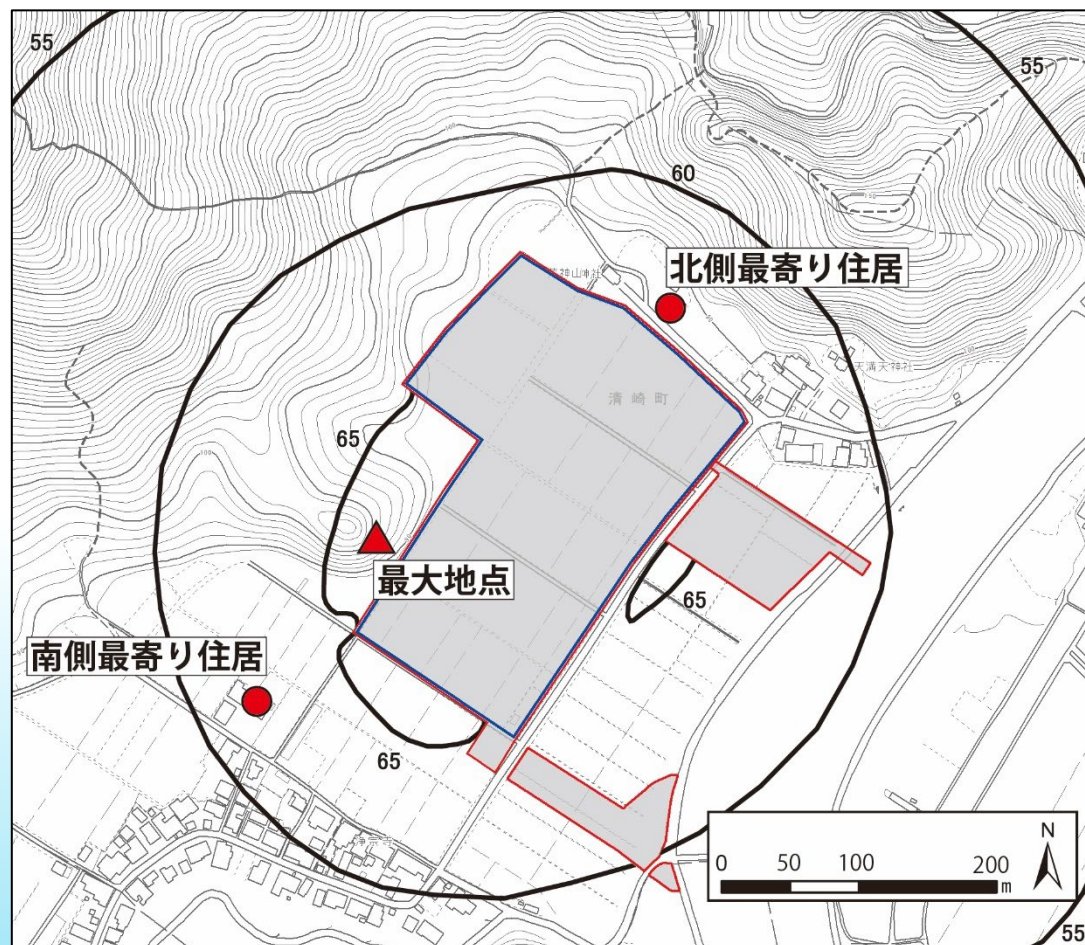
施設の稼働時の騒音・超低周波音・振動の影響予測のイメージ

予測結果 (騒音)

[最大地点]

最大地点	予測結果 (L_{A5})	環境保全 目標値
西側敷地 境界付近	67	85

[単位：dB]



工事中の騒音予測地点と最大地点位置

(2)騒音：③予測・評価結果(重機の稼働)

予測結果 (騒音)

[周辺集落等]

[単位：dB]

予測地点	平日			休日			環境 保全 目標値
	寄与分 (L_{A5}) ①	現況値 (L_{Aeq}) ②	予測結果 (L_{Aeq}) ①+②	寄与分 (L_{A5}) ①	現況値 (L_{Aeq}) ②	予測結果 (L_{Aeq}) ①+②	
1.清崎町公民館	44	42	46	44	41	46	55
2.大山地区公園	41	37	42	41	38	43	
3.稲里町民会館	45	44	48	45	44	48	
4.荒神山山頂	40	43	45	40	41	44	
5.北側最寄住居	55	40	55	55	40	55	
6.南側最寄住居	54	40	54	54	40	54	

注) 昼間の時間帯の評価値である。

評価結果

基準・目標との整合性が図られている。

環境保全措置（後述）の実施により、影響の回避または低減が図られる。